令和８年度

事業別概要一覧

「中央図書館」

【事業別概要一覧】

中央図書館

No.	事業名	事業概要	Ｒ８予算（千円）	意見・質問等	回答	再質問・意見
26	利用者サービス事業	中央図書館を拠点として、分館（東図書館）、分室（東北・西北・西南・南・西分室）、移動図書館において、図書館サービスを提供する。 また、郵便局及びシティステーションによる図書の配送事業を実施する。	108,706			
27	資料収集・保存事務	図書館資料収集方針に基づき、幅広い世代の住民の教育に役立つ資料を収集する。 また、郷土資料・行政資料については積極的に収集する。	43,809	とても面白そうな内容に興味があります。詳しく教えてほしい。	市立図書館には、一般書・児童書合わせて約59万冊の蔵書があり、郷土資料につきましては、寝屋川市に伝わる民話「はちかづき姫」の伝承に関する資料などを収集しております。また、行政資料につきましては、庁内各課で作成された計画などを主に収集しております。 中央図書館の参考資料室には、寝屋川市史（第１巻～第10巻）、市の文化財の調査に関する資料など、市の歴史に関する資料も多くございます。	・資料の公開というのは、どのような形で公開されているのか。 ➡図書館の中の参考資料室の中では常に開架の状態で置いています。貸し出しはできませんが、自由に入って見てもらうことは可能です。 ・鉢かづき姫など、市内にある様々な銅像やモニュメントをきっかけに、郷土資料等に興味を持つ方もおられると思うが、今後、貸出・持ち出しを許可する予定はあるか。 ➡行政・郷土資料は寝屋川市固有の貴重な資料であるため、適切に保管・保存し、次世代へ継承していくことが重要であると考えています。「ここに来ればこうした情報が分かる」という認知を市民に広げるため、文化スポーツ室とも連携しながら、こうした資料の価値や情報を発信していけたらと思います。
28	ＩＣＴ化推進事業	図書館情報システムを始めとしたICT機器の活用により、利用者の利便性の向上を図る。	15,894			

【事業別概要一覧】

中央図書館

No.	事業名	事業概要	R８予算（千円）	意見・質問等	回答	再質問・意見
29	電子図書館事業	図書館に足を運ぶことなく、スマートフォンやタブレット等から電子書籍を利用できる電子図書館サービスにより、市民の読書活動の推進を図る。	6,210			・電子書籍の貸出が想定ほど伸びていない印象があります。要因として、人気タイトルのラインナップ不足や、紙の本と比較した高価格、さらにはセット販売や貸出回数の制限など、販売方法にあると思うが、こうした課題に対する認識をどのように捉えているか。 ➡ご指摘の通り、電子書籍には「希望するタイトルの不足」「紙の1.5～2倍の高価格」「50回等の貸出回数制限」といった課題があり、図書館としても購入するコンテンツの選定には慎重を期しているところです。 利用動向としては、コロナ禍における非接触のニーズで一時的に急増したものの、現在は横ばいとなっています。今後は、紙の本との役割分担や、特化型（旅行書やビジネス書など）のジャンル選定も含め、収集方針についてしっかりと検討していく必要があると考えています。
30	学校連携配送事業	①学校が希望する中央図書館の本を月１回、各小中学校へ配送する ②児童・生徒のタブレットから予約された中央図書館の本を週１回、各小中学校へ配送する。 ①、②により、図書館資料の効果的な活用を進め、児童・生徒の考える力を育み、学習環境の更なる充実を図る。	5,134	生徒の読みたい本を届けてもらえるため、読書の推進に役立っている。	引き続き、児童・生徒の学習環境の充実を図るため、小中学校への図書配送を推進してまいります。	・学校司書の配置情報等、またシステム化について、把握していることがあれば教えてもらいたい。 ➡学校司書については、今現在、９名おり、1人4校を持ってる状態です。システム化については導入している学校もあればしていない学校もある。統一されたシステムはないが、今後検討する必要があると考えています。 ・タブレット等を通じて個人が読みたい本を検索し、配送してもらう仕組みは、児童・生徒の「こんな本が読みたい」という要求を満たすという意味で、ある程度機能していると思う。なお、学校現場において、読みたい本をすぐに見つけ、読めるような環境をどのように充実させていくかについては、システム面とも深く関わってくる課題であると考えられるのではないか。 ・この点に関し、図書館側から学校へ何らかの働きかけを行っているのか、それとも学校側に委ねているのか。 ➡「お届けbook」などは、あくまで学校図書館にないと思われる本を中央図書館から取り寄せる形になっています。しかし、もしかすると学校図書館にも所蔵されている場合があり、学校の蔵書データが把握できれば、関連する本なども身近な学校で対応できる可能性があります。 そのため、図書館としても蔵書データの統一化を図ってもらえればという認識はありますが、システム導入に伴う費用面の課題もあります。どのような図書館システムで一緒に取り組むのが望ましいのかを含めて検討が必要です。また、自校の蔵書だけでなく、他の学校の蔵書も分かるようになれば、さらに良いのではないかと考えます。 ・現在の学校司書９名という体制について、それぞれご活躍されていると思うが、今後増員していく考えはあるか。 ➡国の整備計画や方針の中では、令和4年度から令和8年度にかけて「1.3校に1人」の配置が考えられております。しかしながら、寝屋川市においては現在「4校に1人」の体制となっております。 そのため、中央図書館やこども図書館を活用し、チームで協議しながら学校への配送本の選書を行ったり、各校の蔵書状況を共有して「公共図書館でこのような本を購入したらどうか」といった話し合いを行ったりしています。必ずしも十分な人数を配置することが一番望ましい形かもしれませんが、こうしたチームとしての取り組みを大切にしながら対応しているところです。
31	読書普及啓発事業	講座・講演を開催し、読書への関心を深める。	2,763	講座・講演とはどのようなものか教えてほしい。	作家を市の施設へお招きして講演をしていただくオーサービジットや、大人向けの学び講座「信長・秀吉と陰陽師」など多種多様な講座・講演を開催しております。（行事予定は「としょかんだより」参照）	

【事業別概要一覧】

中央図書館

No.	事業名	事業概要	R８予算（千円）	意見・質問等	回答	再質問・意見
32	障害者・高齢者・多文化サービス事業	障害者・高齢者・外国人など、利用者に対応した図書サービスを提供する。	148			
33	子ども読書活動推進事業	絵本の読み聞かせや各種講座の開催により、乳幼児期から発達段階に応じて、読書の楽しさを知ることができるきっかけをつくり、生涯にわたる読書習慣を身に付ける。	5,320	読書習慣の定着には小さい頃から本に親しむことが非常に重要であると思っている。読み聞かせの行事やボランティア育成の講座は行われていると思うが、①一般の保護者向けに読み聞かせの魅力や効果を知ってもらい、家庭での読み聞かせの普及を図るために発信等の取り組みや工夫をしていることがあれば教えてほしい。 ②小学校へも読み聞かせにきてくれている。この活動もこの事業の一環なのか。	①読み聞かせ講座のあとに、講師からのアドバイスを受けられる読書相談の時間を設けております。 ②小学校への読み聞かせについては、主にボランティアの方々が中心となって取り組んでいただいております。	・読み聞かせ講座について、本に興味のない人に来てもらうために何か工夫していることはあるか ➡図書館の利用促進においては、リピーターの方にくわえて、いかに無関心層を呼び込むかが重要であると考えています。本市では新しく「こども図書館」ができ、芝生の遊びスペースや読書スペースが設けられています。現在、子育て相談や遊びの場として多くの未就学児や子育て世代が来館されており、保育士が常駐する中で、「この時間に読み聞かせがあるから寄ってみてはどうか」「このカードがあれば本が借りられるらしいよ」といった形で、図書に関する話題を振ったり、空間の中で自然に本に触れてもらったりするアプローチをしています。その結果、4月以降は、昔からの利用者に加え、子育て世帯からの利用者が増えているという実感があります。 もう一つの取り組みとして、市役所の窓口機能を持つ「サービスゲート」を活用しています。4か月児健康診査や1歳半健康診査などの会場でもこども図書館を積極的にアピールしており、健診の帰りに立ち寄ってもらうことで、遊びから本へとつなげています。このように、最初から本を目的に来館される方とは別に、さまざまな角度から図書館に足を運んでもらえるよう、関係者一同で取り組んでいるところです。 ・ソフト面での取り組みも教えてもらえないか。 ➡こども図書館の開設前より、市内の幼稚園・保育所の5歳児を対象とした「図書館探検事業」を実施しています。貸出体験や読み聞かせなどを通して楽しい思い出をつくり、保護者と一緒に再来館するきっかけづくりとしています。昨年度は東図書館等で実施するなど、子どもたちが図書館に親しむ良い機会になったのではないかと思います。 ・小学校に比べて中学校では読書機会が大きく減るという課題があるが、中学1年生を対象にブックトーク等を実施したところ、非常に落ち着いた豊かな時間を持つことができ、それを契機に中学2・3年生での図書委員会によるビブリオバトルの取り組みなどへ発展させることができた。この経験から、中学生におけるこうしたアプローチは非常に有効であったと思う。今後、図書館ボランティアの紹介などもしてもらえると良いのではないかと考えている。 ➡中学校での「絵の本のひろば」等の実施については、実際に取り組んだ学校からも好意的な声が聞かれており、想像以上に高い効果があると感じています。今後、多くの学校でこうした取り組みが行われ、子どもたちの新たな一面を教職員が一緒に見出しながら進めていく学校が増えることを期待しています。 ・実際にこども図書館を利用したが、子どもたちの好奇心をくすぐるような仕掛けがたくさんある一方で、死角の多さや、滑り台等の遊具での利用方法について少し心配な面もあった。子どもが寝転んで本を読むような良い効果がある一方で、「落ち着いて読みたい子」と「遊びたい子」の棲み分けや、利用上の大きなトラブルの有無などについて現状を伺いたい。 ➡ご指摘の通り、小学校高学年などの子どもたちが利用する中で、滑り台での逆走など、危険な行動が見られることがございます。小さい子どもへの影響や保護者の方の懸念についても十分に認識しております。 そのため、保育士や司書が定期的に館内を巡回し、危険な遊び方をしている児童にはその都度厳しく、かつ丁寧に注意を行っております。必要に応じて「何度も続くなら利用が難しくなるよ」と諭したり、学校へ連絡した事例もあります。 一方で、こうした場所は小学生等の子どもたちにとっても、仲間と集まれる貴重な居場所となっており、一定の会話が許容される空間としての機能も持っています。現時点で大きなトラブルには至っておりませんが、多様な世代の利用者が安全に、かつ気持ちよく共存できるよう、今後もスタッフ一丸となって適切な対応と見守りに努めてまいります。

【事業別概要一覧】

中央図書館

No.	事業名	事業概要	R８予算（千円）	意見・質問等	回答	再質問・意見
34	子どもの多読化推進事業	読書習慣の定着を目的とした読書活動に「多読」の要素を加えることによって、読書習慣を身に付けながら、「文章の意味を正確に理解する力」「言語化する力」を育む。 ジャンルを問わず数多くの本を読むこと・数多くの本に触れること	3,982	①「子どもの多読化」にはぜひ力を入れてほしい。 ②とても大切な事業だと思う。授業の図書の時間しか本を読まない子どもも多くいると思う。	①②今年度から「ディベート・スピーチ・読書」の３本柱からなる「寝屋川教育」がスタートし、これまでの読書習慣の定着を目的とした読書活動を基本としつつ、新たに「考える力」の基盤となる「ことばの力」の育成を目的とした読書活動・「多読」を加えることにより、子どもたちの読書活動を推進してまいります。 　読書通帳の全児童への配布（２学期～）や今年の100冊リストの作成、電子図書館読み放題パックの導入、こども図書館+plusの図書館見学など、学校とも連携しながら、子どもの読書意欲を高める取組を進めてまいります。	・読書通帳が全生徒に配布されることについて、生徒の読書意欲を高める上で大変ありがたいと考えている。図書配送事業等と併用し、ぜひ有効に活用していきたい。
	その他					自習室について ・図書館利用カードがあれば自習室が使えるということか。 ➡そうです。図書館の自習スペースについてですが、指定席の自習室は、登録された方に利用していただいております。一方で、図書館カードをお持ちでない方を含め、どなたでも自由にご利用いただけるフリースペースとして一部開放しております。 利用状況としては高校生の方などが非常に多く、寝屋川市外にお住まいであっても市内の高校に通学されている場合は在学ということで図書館カードを作成できますので、テスト前などに多くの生徒が勉強に訪れている状況でございます。 ・自習スペースについて、これまでに何かトラブルはあったか。 ➡自習室における私物の置きっ放しや騒音などが懸念されますが、現在のところ利用者の皆様は非常に静かに利用されています。 運用面では、30分以上離席する際の番号札の返却ルールが徹底されているほか、受付でのカード提示による利用者管理やスタッフによる定期的な巡回・注意喚起を行っています。利用者間でもルールがよく共有されており、大きな問題なく運用できています。 ・市役所に自習室があったときはは駐輪場が無料だったのに対し、駅前に移ったことで200円の費用がかかるようになってしまい、その点は少し不便を感じている。 ➡駅前に移転したことに伴い、図書館利用者向けにはもともと60分無料のところに、さらに1時間分の券をお渡しする対応をしております。しかし、自習などで利用される場合は滞在時間がどうしても長くなってしまうため、「もっと無料時間を延ばしてほしい」といったご意見はあります。